仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.17

2011.8.15

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

蒲生干潟における植物の再生過程(3) 7月の調査で見出された植物

■概要

大津波の後、確認できなかった植物のいくつかを見出したので報告する。テリハノイバラの3個体で開花が認められた。ハマニンニク、ハマエンドウ、オニシバは砂地の中から新規に芽を伸ばし始めていた。ハマナスは7月時点でも開花していた。一部の個体では着果が認められた。

■調査方法

調査は7月9日に実施した。干潟全域を踏査し、植物の再生状況を確認した。特に開花個体に着目し、写真撮影をした。

■結果と考察

以前は大きな群落として存在していたテリハノイバラであったが、津波の被害によって群落サイズは著しく縮小した。6月までの調査では着葉のみ認められたが、7月9日の調査時に開花（Fig.1）が認められたのは3個体であった。

テリハノイバラは耐塩性が比較的高く、日本全域の海岸線付近で見られる。

7月の調査で新たに見出したのはハマヒルガオ・ハマエンドウ・ハマニンニク・オニシバであった。

Fig.1　テリハノイバラ

ハマニガナは現時点で見出すに至っていない。

以前は至る所でハマヒルガオを観察することができたが、津波後は見出せずにいた。今回の調査でようやく、パッチ状に相当数見出すことができた。いずれ個体も高さは15cm前後で、以前のような状態ではない。もちろん開花個体はなかった。時期的な問題もあると考えられるので、次回の調査で精査したい。

ハマエンドウはハマヒルガオに比べると個体数が少なかった。相当に分散する形でFig.3のように、一地点から3～5本程度の茎を出す形で芽を伸ばし始めた状態であった。今後の推移に注目したい。

Fig.2　ハマヒルガオ(7月9日)

Fig.3　ハマエンドウ(7月9日)

(長島康雄)